

課題番号	総14-001
------	---------

平成26年度 学術研究助成金〔総合研究〕成果物報告書

平成28年12月28日

日本大学学長殿

氏名 和田万紀



所属・資格 法学部・教授

下記のとおり提出いたします。

退職、転出の場合は、() 書きで受領時の資格を記入

1 研究課題 人間科学における法				
2 研究組織				
氏名	所属部科校・資格	役割分担		
○研究代表者名 和田 万紀	法学部・教授	社会心理学からの提言と考察および研究を総括する		
○研究分担者 清水 恵介 壽福 隆人 佐藤 秀明 辻 忠博 巖島 行雄 田中堅一郎 伊坂 裕子 伊藤 令枝	法学部・教授 法学部・教授 法学部・専任講師(助教) 経済学部・教授 文理学部・教授 大学院総合社会情報研究科・教授 国際関係学部・准教授 理工学部・助教	法学からの提言と考察 公民教育学からの提言と考察 健康科学からの提言と考察 経済学からの提言と考察 法心理学からの提言と考察 産業組織心理学からの提言と考察 人格心理学からの提言と考察 認知心理学からの提言と考察		
3 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
和田万紀	桜文論叢 大学の教養教育としての心理学教育の可能性	第87巻 p.1-21	平成26年 10月	日本大学法学部
和田万紀	桜文論叢 非教員養成系大学の教職課程における心理学教育の意義	第88巻 p.1-17	平成27年 3月	日本大学法学部
田中堅一郎	日本大学大学院総合社会情報研究科紀要 民事訴訟および民事裁判における公正に関する日本の社会心理学的研究の展望	No.16 p.177-186	平成27年 11月	日本大学大学院総合社会情報研究科
和田万紀・清水恵介 壽福隆人・巖島行雄 辻忠博・田中堅一郎 伊坂裕子・佐藤秀明 伊藤令枝	桜文論叢 人間科学における法 —大学の教養教育における心理学教育の可能性—	第91巻 p.317-337	平成28年 2月	日本大学法学部
福島由衣・三浦大志・ 巖島行雄	法と心理 面接者の誘導が繰り返しの写真識別判断に与える影響:「わからない」判断を用いた検討	第16巻 第1号 p.100-111	平成28年 10月	法と心理学会機関誌編集委員会 日本評論社

※ホームページ等での公開の(◎・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)			
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
高栖朝子・和田万紀	日本応用心理学会 第82回大会	看護職の挫折体験の意味づけが自己変容に与える影響	平成27年9月5日
和田万紀・高栖朝子 須永範明	日本応用心理学会 第82回大会	看護職の挫折体験の意味づけと自己変容—意味づけ、統制感、自己変容の関連性—	平成27年9月5日
Maki Wada and Hiroko Isaka	ICP2016 The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan. 第31回国際心理学会 議・日本心理学会第80 回大会 (同時開催)	Cambridge University Examination Papers of Moral Sciences around 1900 depict the struggle for independence of modern psychology in the arising era.	平成28年7月 24日—29日
伊坂裕子・和田万紀	日本応用心理学会 第83回大会	対人場面における行動の適切さの判断に影響を与える要因の検討—専門性の違いによる影響—	平成28年9月1日—2日
5 本研究課題に関するその他の発表 (新聞掲載等)			
特になし			
6 本研究に関連して外部資金への申請状況, 獲得状況			
<p>基盤研究 (A) (一般) (H28-H30) (日本大学法学部) 人間科学における法 和田万紀・清水恵介・壽福隆人・佐藤秀明・辻忠博・巖島行雄・田中堅一郎・伊坂裕子・伊藤令枝 不採択</p> <p>基盤研究 (A) (一般) (H29-H31) (日本大学法学部) 法の行動科学—心理学・教育学・経済学からのアプローチ— 和田万紀・清水恵介・壽福隆人・佐藤秀明・辻忠博・巖島行雄・田中堅一郎・伊坂裕子・伊藤令枝 平成28年12月現在申請中</p> <p>基盤研究 (B) (一般) 採択 研究代表者 巖島行雄 基盤研究 (B) (一般) (H28—H30) (日本大学文理学部) 課題番号 16H03754 研究課題名 目撃記憶形成の探求:一瞥に人は何を見て何を覚えるのか? 直接経費 合計1500万円</p> <p>基盤研究 (C) (一般) 採択 研究代表者 田中堅一郎 基盤研究 (C) (一般) (H28—H30) (日本大学大学院総合社会情報研究科) 課題番号 16K04271 研究課題名 リーダーの自己概念の変容による多様化がリーダーシップ行動に及ぼす影響 直接経費 合計250万円</p> <p>基盤研究 (C) (一般) (H28-H30) (日本大学国際関係学部) 日常場面における道徳的判断と文化的自己—日米比較研究— 伊坂裕子 不採択</p>			

7 他の研究への発展

- ・法の支配と開発経済学 (辻忠博)
- ・新たな法心理学の展開
 民事法学と心理学 (清水恵介)
 民事法学と社会心理学 (田中堅一郎)
- ・目撃記憶形成に際しての脳科学的研究 (巖島行雄)
- ・リーダーシップの自己概念に関する組織心理学的考察 (田中堅一郎)
- ・法意識の形成と教育 —アジアの特徴— (壽福隆人・佐藤秀明)
- ・規範と文化的自己 (伊坂裕子)
- ・心理学の受容過程における日英比較 —100年前の「現代心理学」の再現—
 (和田万紀・伊坂裕子・伊藤令枝)

8 その他の成果

平成27年度法学部招聘教授、ケンブリッジ大学法学部 Loraine Gelsthorpe 先生と (滞在期間平成27年9月14日—9月20日) (招聘担当・和田万紀)、本研究の成果と発展の可能性の討議を行い、ケンブリッジ大学法学部における法学教育等に関して情報をいただいた。さらに、今後の共同研究にむけて、和田が平成29年度海外派遣研究員としてケンブリッジ大学ペンブロッコレッジに滞在する際に具体的内容を検討する予定である。

9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況

名 称	知的財産の種類	発 明 者 (考案者・創作者)	権 利 者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日
特になし						

課題番号	総14-003
	継続
	総13-003

平成26年度 学術研究助成金〔総合研究〕 成果物報告書

平成 28年 3月 23日

日本大学学長 殿

氏名 児玉 充



所属・資格 商学部・教授

下記のとおり提出いたします。

退職、転出の場合は、() 書きで受領時の資格を記入

1 研究課題 ライフイノベーションを実現する経営革新モデルに関する学際的研究				
2 研究組織				
氏名	所属部科校・資格	役割分担		
○研究代表者名 児玉 充	商学部 教授	研究全般の総括、データ収集、分析、論文・書籍執筆		
○研究分担者 高橋 淑郎	商学部 教授	介護、高齢者対策のための経営革新モデル調査研究、論文・著書作成		
根東 義明	医学部 教授	高度医療のための経営革新モデル調査研究、論文・著書作成		
白神 誠	薬学部 教授	高度医療のための経営革新モデル調査研究、論文・著書作成		
青木 武典 (平成27年3月31日退職)	商学部 准教授	介護、高齢者対策のための経営革新モデル調査研究、論文・著書作成		
劉 慕和	商学部 准教授	介護、高齢者対策のための経営革新モデル調査研究、論文・著書作成		
合計 6名		介護、高齢者対策のための経営革新モデル調査研究、論文・著書作成		
3 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Mitsuru Kodama	Winning Through Boundaries Innovation	著書	2014年7月	Peter Lang (UK)
Mitsuru Kodama, Toshiro Takahashi, Yoshiaki Kondo, Makoto Shiragami, Mu-Ho Liu, and Takenori Aoki	Collaborative Innovation - Developing Health Support Ecosystems	著書 (Routledge Studies In Innovation, Organization And Technology Series, Vol.39)	2015年7月	Routledge (UK)
Mitsuru Kodama	Knowledge and Process Management/Managing Knowledge Through Video-Based Communities	Vol.20, No.4	2013年12月	Wiley(US)

※ホームページ等での公開の(◎・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)						
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月			
特になし						
5 本研究課題に関するその他の発表 (新聞掲載等)						
特になし						
6 本研究に関連して外部資金への申請状況, 獲得状況						
1. H25 第24回ファイザーヘルスリサーチ振興財団 国際共同研究 (H25~H26) 「eヘルスケアサービスのイノベーションに関するグローバル研究」(児玉充) 他3名 2,999 (千円) (2015年12月1日~2016年11月30日) -不採択 2. 基盤研究 (B) (一般) (H28~H31) 「ヘルスケア分野におけるサービスイノベーションに関する学際的研究」 (総額 19,910 千円) -不採択						
7 他の研究への発展						
本コンセプトの理論化と実証レベルでの検証が、「ヘルスケアイノベーション」に関する新たな理論的コンセプトと具体的な実践的インプリケーションを今後さらなる世界に向けて発信する機会にもつながる。又、同時に本研究成果が文理融合した新たな学際的研究領域を開拓する点でも大きな意義があると考え。						
8 その他の成果						
特になし						
9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況						
名称	知的財産の種類	発明者 (考案者・創作者)	権利者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日
特になし						

課題番号	総 14-005 継続 総 13-004
------	----------------------------

平成26年度 学術研究助成金〔総合研究〕成果物報告書

平成 28 年 4 月 15 日

日 本 大 学 学 長 殿

氏 名 宗 形 賢 二



所属・資格 国際関係学部・教授

下記のとおり提出いたします。

退職、転出の場合は、() 書きで受領時の資格を記入

1 研究課題				
20 世紀初頭における日系アメリカ人の社会文化史的考察				
2 研究組織				
氏 名	所属部科・資格	役割分担		
○研究代表者名 宗 形 賢 二	国際関係学部・教授	映像における日系人研究		
○研究分担者 吉 田 正 紀	国際関係学部・教授 (平成 27 年 3 月 31 日定年退職)	異人種間混交に関する文化人類学的研究		
木 内 徹	生産工学部・教授	マイノリティ文化研究		
中 村 進	法学部・教授	移民法研究		
武 井 勲	国際関係学部・助教	日系移民の社会階層分析		
3 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
宗 形 賢 二	『国際文化表現研究』 日本における早川雪洲の受容と国民感情 -『チート』を中心として-	12 号	H28.3	国際文化表現学会
吉 田 正 紀	フランツ・ボアズの人類学と 20 世紀初頭のアメリカ社会-その生成と影響と役割-			
木 内 徹	20 世紀初頭の日系アメリカ人社会における俳句の役割			
中 村 進	日米の報道記事・外交文書に見る写真結婚の評価			
武 井 勲	合衆国国勢調査データからみた 20 世紀初頭における日系アメリカ人の人口動態的特徴			
中 村 進	『政経研究』/ 排日移民法成立の背景 -写真結婚の影響を中心に-	第 52 巻 第 2 号	H27.9	日本大学政経研究所

※ホームページ等での公開の(可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)						
発表者名	学会名	発表テーマ			発表年月	
宗形 賢二	国際文化表現学会 第11回全国大会	日本における『チート』の受容について			平成27年5月9日	
吉田 正紀	国際文化表現学会 第11回全国大会	20世紀初頭のアメリカ人類学とフランス・ボアズの影響と役割			平成27年5月9日	
中村 進	国際文化表現学会 第11回全国大会	排日移民法成立の背景・写真結婚の影響を中心に			平成27年5月9日	
武井 勲	国際文化表現学会 第11回全国大会	合衆国国勢調査データからみた20世紀初頭における日系アメリカ人			平成27年5月9日	
5 本研究課題に関するその他の発表 (新聞掲載等)						
6 本研究に関連して外部資金への申請状況, 獲得状況						
平成28~30年度科学研究費助成事業基盤研究C (特設分野研究) 申請、不採択						
7 他の研究への発展						
8 その他の成果						
9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況						
名称	知的財産の種類	発明者 (考案者・創作者)	権利者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日

課題番号	総 14-007
	継続
	総 13-007

平成26年度 学術研究助成金〔総合研究〕成果物報告書

平成28年4月15日

日本大学学長 殿

氏 名 増田 光 一



所属・資格 理工学部海洋建築工学科 特任教授

下記のとおり提出いたします。

(教授)

1 研究課題				
巨大地震・津波災害時のための医療支援浮体システムに関する研究				
2 研究組織				
氏 名	所属部科校・資格		役割分担	
○研究代表者名 増田光一	理工学部／特任教授		研究統括	
○研究分担者 小林昭男	理工学部／教授		浮体係留計画統括	
畔柳昭雄	理工学部／教授		浮体意匠設計統括	
居駒知樹	理工学部／教授		浮体波浪中性能, エネルギー	
坪井望太郎	理工学部／准教授 (平成27年3月退職)		地域防災・リスク評価	
恵藤浩朗	理工学部／准教授		浮体構造設計統括	
登川幸生	理工学部／教授		水上搬送システム統括	
木下浩作	医学部／教授		災害時広域搬送拠点計画	
山口順子	医学部／助教		海上における医療技術	
齋藤俊克	工学部／専任講師		コンクリート材料設計	
高田昌子	短期大学部／准教授		海上における水生成	
谷米温子	生物資源科学部／助教		海上における水生成	
3 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (☑・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)						
発表者名	学会名	発表テーマ			発表年月	
増田光一, 惠藤浩朗, 佐藤千昭, 居駒知樹, 中島麻悠美, 清水研, 畔柳昭雄, 小林昭男, 登川幸生, 坪井壘太郎, 丹正勝久, 木下浩作, 山口順子, 齋藤俊克, 高田昌子, 谷米温子	日本海洋工学会・日本船舶海洋工学会	透析センターとして運用する災害時医療支援浮体の適地選定に関する検討			平成 27 年 8 月	
増田光一, 惠藤浩朗, 佐藤千昭, 居駒知樹, 清水研, 中島麻悠美, 畔柳昭雄, 小林昭男, 登川幸生, 坪井壘太郎, 丹正勝久, 木下浩作, 山口順子, 齋藤俊克, 高田昌子, 谷米温子	日本海洋工学会・日本船舶海洋工学会	透析センターとして運用する災害時医療支援浮体の運用方法および平面計画に関する検討			平成 27 年 8 月	
橋本洋佑, 増田光弘, 南清和, 惠藤浩朗, 増田光一, 居駒知樹, 佐藤千昭, 畔柳昭雄, 小林昭男, 登川幸生, 坪井壘太郎, 丹正勝久, 木下浩作, 山口順子, 齋藤俊克, 高田昌子, 谷米温子	日本海洋工学会・日本船舶海洋工学会	河川に設置した浮体式災害時医療支援システムの津波中における挙動予測に関する基礎的研究			平成 27 年 8 月	
5 本研究課題に関するその他の発表 (新聞掲載等)						
なし						
6 本研究に関連して外部資金への申請状況, 獲得状況						
平成 28 年度科学研究費補助金・基盤研究 (C) (一般) 採択 研究代表者: 増田光一 課題名: 津波による漂流物が建築物に与える衝撃荷重特性と被災規模の定量的評価 期間: 平成 28 年度~平成 30 年度 期間全体での予算: 370 万円 (直接経費)						
7 他の研究への発展						
河川等を利用した巨大地震災害時の災害支援物資輸送やそのための海上・水上拠点整備などのロジスティクスの多様性の研究が見込まれる。 上記, 科研費で採択された, 津波被害の評価と防災拠点整備の総合的研究が見込まれる。						
8 その他の成果						
なし						
9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況						
名 称	知的財産の種類	発 明 者 (考案者・制作者)	権 利 者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日

課題番号	総14-008
	継続
	総13-009

平成26年度 学術研究助成金〔総合研究〕成果物報告書

平成 28 年 10 月 19 日

日 本 大 学 学 長 殿

氏 名 岩田 展幸
 所属・資格 電子工学科・准教授



下記のとおり提出いたします。

退職、転出の場合は、() 書きで受領時の資格を記入

1 研究課題 酸化物人工超格子界面での革新的多機能発現と超低消費社会への還元				
2 研究組織				
氏 名	所属部科校・資格	役割分担		
○研究代表者名 岩田 展幸	理工学部 /准教授	人工超格子作製、結晶評価、 ナノ領域物性評価、総括		
○研究分担者 山本 寛	理工学部 /教授	面内・面直電気抵抗測定		
高野 良紀	理工学部 /教授	ホール効果測定、磁気抵抗測定		
高瀬 浩一	理工学部 /教授	磁化測定、電界印加磁化測定		
橋本 拓也	文理学部 /教授	人工超格子作製のためのペッチーニ法による原料ターゲットの作製		
石田 浩	文理学部 /教授	エムベディッド Green 関数法を用いた人工超格子の第一原理計算		
清水 耕作	生産工学部 /教授	電流電圧特性、温度特性、電子光－光電子吸収		
3 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Nobuyuki Iwata, Yuta Watabe, Takahiro Oikawa, Kouichi Takase, Mark Huijben, Takaaki Inaba, Keisuke Oshima, Guus Rijnders, and Hiroshi Yamamoto	Japanese Journal of Applied Physics .53, 05FB20_1-5 (2014) “In-plane electric properties of [CaMnO ₃ /REMO ₃] (RE=Bi, La M=Fe, Fe _{0.8} Mn _{0.2}) superlattices grown by pulsed laser deposition method”	53	2014 4月	The Japan Society of Applied Physics
Yuta Watabe, Nobuyuki Iwata, Takahiro Oikawa, Takuya Hashimoto, Mark Huijben, Guus Rijnders, and Hiroshi Yamamoto	Japanese Journal of Applied Physics 53, 05FB12_1-8 (2014) “Fabrication and Crystal Structure of [ABO ₃ /REMO ₃] (A=Ca, La, B=Fe, Mn, RE=Bi, La, M=Fe, Fe _{0.8} Mn _{0.2}) Superlattices Grown by Pulsed Laser Deposition Method”	53	2014 4月	The Japan Society of Applied Physics

<p>Takaaki Inaba, Yuta Watabe, Keisuke Oshima, Chun Wang, Shohei Ohashi, Huaping Song, Hiroataka Matsuyama, Tomoko Nagata, Takuya Hashimoto, Kouichi Takase, Hiroshi Ishida, Yoshiki Takano, Kousaku Shimizu, Hiroshi Yamamoto, and Nobuyuki Iwata</p>	<p>Trans. Mater. Res. Soc. Jpn. 41 (2016) 263-267 “Electric and Magnetic Properties of BiFe_{1-x}Mn_xO₃ Thin Films and CaFeO_x/BiFe_{1-x}Mn_xO₃ Superlattices”</p>	<p>41</p>	<p>2016 9月</p>	<p>(社)日本MRS 総合電子ジャーナルプラットフォーム(J=STAGE)</p>

※ホームページ等での公開の可

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)			
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
岩田展幸, 山本寛	電子情報通信学会 電子部品・材料研究会 (CPM)・ED・SDM 共催研究会	サファイア基板上における Co/Pt/r 面配向 Cr2O3 積層膜の成膜条件最適化	20150528
Nobuyuki Iwata, Takuya Hashimoto, Kouichi Takase, Hiroshi Ishida, Kousaku Shimizu, Hiroshi Yamamoto	The 5th International Symposium on Organic and Inorganic Electronic Materials and Related Nanotechnologies (EM-NANO 2015)	Experimental Results and Density Functional Theory Approach of CaFeO _x /LaFeO ₃ Superlattice	20150617
Takuya Hashimoto, Kouichi Takase, Hiroshi Ishida, Kousaku Shimizu, Hiroshi Yamamoto, Nobuyuki Iwata	The 5th International Symposium on Organic and Inorganic Electronic Materials and Related Nanotechnologies (EM-NANO 2015)	Electric and Magnetic Properties of BiFe _{1-x} Mn _x O ₃ Thin Films and CaFeO _x /BiFe _{1-x} Mn _x O ₃ Superlattices	20150616
橋本 拓也, 高瀬 浩一, 山本 寛, 岩田 展幸,	電子情報通信学会 電子部品・材料研究会(CPM)・EMD・OME 共催研究会	ペッチーニ法で作製した Bi _{1+x} FeO ₃ (x = 0.0, 0.2)ターゲットおよびパルスレーザー堆積法で作製した BiFeO ₃ 薄膜の化学当量性の評価	20150619
高瀬 浩一, 橋本 拓也, 山本 寛, 岩田 展幸	電子情報通信学会 電子部品・材料研究会(CPM)	BiFe _{1-x} Mn _x O ₃ 薄膜及び [CaFeO _x /BiFe _{1-x} Mn _x O ₃]人工超格子の電気的特性	20150810
高瀬 浩一, 橋本 拓也, 山本 寛, 岩田 展幸	電子情報通信学会 電子部品・材料研究会(CPM)	[CaFeO _x /LaFeO ₃]人工超格子の電気的磁気的特性	20150810
K. Takase, T. Hashimoto, H. Yamamoto, N. Iwata	第25回日本MRS年次大会	Influence of the Pechini Bi-excess BiFeO _x Target on Growth of BiFeO ₃ Thin Films	20151208
K. Takase, T. Hashimoto, Y. Hiroshi, and N. Iwata	第25回日本MRS年次大会	Crystal Structure of [(CaFeO _x) _n /(LaFeO ₃) _n] (n=1, 3, 5, 7) Artificial Superlattices	20151208
K. Takase, T. Hashimoto, H. Yamamoto, N. Iwata	第25回日本MRS年次大会	Electric and magnetic property of [CaFeO _x /LaFeO ₃] artificial superlattice	20151208
K. Takase, T. Hashimoto, H. Yamamoto, N. Iwata	第25回日本MRS年次大会	Electric and Magnetic Properties of BiFe _{1-x} Mn _x O ₃ Thin Films and CaFeO _x /BiFe _{1-x} Mn _x O ₃ Superlattices	20151208

Kouichi TAKASE, Takuya HASHIMOTO, Hiroshi YAMAMOTO, Nobuyuki IWATA	第25回日本MRS年次大会	Structural and Magnetic Properties of [CaFeO ₃ /REMO ₃] (RE=La, Bi, M=Fe, Fe _{1-x} Mn _x) Superlattices Grown on SrTiO ₃ (001) by Pulsed Laser Deposition Method	20151210
橋本 拓也, 高瀬 浩一, 山本 寛, 岩田 展幸	第 63 回応用物理学会春季 学術講演会	反強磁性絶縁体 CaFeO ₃ および LaFeO ₃ を用いた[(CaFeO _x) _n /(LaFeO ₃) _n] _m {m=14 for n=3,5,7 and (n, m)=(1,98),(3,33),(5,20)}人工超格子における磁気的特性の膜厚及び界面数依存性	20160319
橋本 拓也, 高瀬 浩一, 山本 寛, 岩田 展幸	第 63 回応用物理学会春季 学術講演会	[(CaFeO _x) _n /(LaFeO ₃) _n] _m {m=14 for n=3,5,7 and (n, m)=(1,98),(3,33),(5,20)}人工超格子の精密な堆積量制御手法の開発及び結晶構造解析	20160322
橋本 拓也, 山本 寛, 岩田 展幸	第 63 回応用物理学会春季 学術講演会	SrTiO ₃ (110)上に成膜した BiFeO ₃ 薄膜および人工超格子の結晶構造解析及び電気的磁気的特性	20160311
橋本 拓也	2015 年電気化学会秋季大会	CO ₂ 分圧仔魚下で Li ₄ SiO ₄ の CO ₂ 吸収反応の解析	20150911
Takuya HASHIMOTO	第25回日本MRS年次大会	Electrical Conductivity Electrical Conduction and Crystal Structure of PrNi _{1-x} Fe _x O _{3-δ} at High Temperature	20151209
橋本 拓也	第 54 回セラミックス基礎 科学討論会	Ba _{2-x} La _x Fe ₂ O _{5+δ} の結晶構造と導電特性の組成依存性	20160107
橋本 拓也	日本セラミックス協会 2016 年年会	Pr ₂ Ni _{1-x} Cu _x O _{4+δ} の結晶構造の組成依存性	20160315
Kousaku Shimizu	26th international Conference on Amorphous and Nanocrystalline Semiconductors	Evaluation of Absorption-edge Properties of a-InGaZnO ₄ by Oxygenation or Hydrogenation using PYS/IPES	20150914
Kousaku Shimizu	26th international Conference on Amorphous and Nanocrystalline Semiconductors	Evaluations of Stress Induced Instabilities of Amorphous Oxide Semiconductors using reflection CPM and their relations with TFT instabilities	20150918
Kousaku Shimizu	2016 MRS Spring Meeting & Exhibit	Fabrication of excellent p-i-n interfaces made by Sputtering with Supplying Atomic Hydrogen	20160330
H. Ishida	International Workshop on Molecular Architectonics 2015 (IWMA2015)	Field induced transient current in a quasi-one-dimensional nanostructure	2015 08 05
H. Ishida	International Conference of Computational Methods in Sciences and Engineering (ICCMSE2016)	Spin-orbit interactions at solid surfaces studied by the embedded Green's function technique	2016 03 17
H. Ishida	ドイツ物理学会 年会 (DPG-Frühjahrstagung 2016)	Topological invariants in the embedding-potential	2016 03 08

Y. Takano, and K. Takase	The 15th IUMRS-International Conference in Asia (IUMRS-ICA 2014)	Effect of the reduction of film resistivity on the I-V curves of ReRAM using porous alumina	201408
K. Takase	International Microprocesses and Nanotechnology conference	Hydrogen Injection Effect on the Current - Voltage Characteristics of Resistive Change Memory with Nano Peak Structure	201411

5 本研究課題に関するその他の発表（新聞掲載等）

6 本研究に関連して外部資金への申請状況，獲得状況

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））（H27～H29）
空間制御型抵抗変化メモリの創生とスッチングメカニズの解明
（高瀬浩一，清水智弘）
申請額：5,000千円 採択：3,800千円

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））（H27～H29）
プロトン・ホール混合導電体の開発と低温作動燃料電池への応用
（橋本拓也，丹羽栄貴，佐々木一哉）
申請額 5,000千円 非採択

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））（H28～H30）
酸化物人工超格子界面の磁気特性電界制御と電子／スピン状態の微視的描像の解明
（岩田展幸，高瀬浩一，永田知子，橋本拓也，石田浩，羽柴秀臣）
申請額：4,980千円 非採択

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））（H28～H30）
セラミックス合成プロセスの最適化による二酸化炭素吸収・貯蔵材料の開発
（橋本拓也，丹羽栄貴，佐々木一哉）
申請額：4,480千円 採択：3,300千円

7 他の研究への発展

パルスレーザー堆積装置に紫外線およびX線を線源とした光電子分光装置を取り付け、成膜後ただちに、超格子およびその界面の電子・スピン状態を測定できる環境を整え、現在、誘起強磁性体の起源を探索する研究に発展している。

8 その他の成果

9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況

名称	知的財産の種類	発明者 (考案者・制作者)	権利者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日

課題番号	総 14-011 継続 総 13-011
------	----------------------------

平成26年度 学術研究助成金〔総合研究〕成果物報告書

平成 28 年 4 月 21 日

日 本 大 学 学 長 殿

氏 名 長 林 久 夫



所属・資格 工学部・研究員(平成27年3月31日まで教授)

下記のとおり提出いたします。

退職,転出の場合は, () 書きで受領時の資格を記入

1 研究課題				
河川・湖沼における放射性物質による魚類・飲料水に関する環境リスク評価				
2 研究組織				
氏 名	所属部科校・資格	役割分担		
○研究代表者名 長林 久夫	工学部・研究員	総括, 放射性物質の水域に及ぼす面源負荷評価		
○研究分担者 古河 幸雄 平山 和雄 中野 和典 手塚 公裕 高井 則之 合計 6名	工学部・教授 工学部・研究所教授 工学部・教授 工学部・助教 生物資源科学部・准教授	底質の組成と含有放射性物質の関係評価 放射性物質の微量金属への吸着特性の検討 放射性物質の存在形態と水域負荷の把握 放射線核種の水域動態解析 食物連鎖による放射線核種の魚類への濃縮過程の検討		
3 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
中野和典, 手塚公裕, 長林久夫, 亀田豊, 玉 田将文	生物工学会誌, pp.217-221/低線量地域に おける水中放射性セシウム濃度の計測	vol.92, No.5	2014/5	日本生物工学会
平山和雄	生物工学会誌, pp. 222-224/ 日本大学工 学部キャンパスの除染と射性物質汚染土 壌除染処理システム	Vol.92, No.5	2014/5	日本生物工学会

※ホームページ等での公開の(可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)			
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
手塚公裕, 長林久夫, 古河幸雄, 平山和雄, 中野和典, 柳原隆司	第 3 回環境放射能除染研究発表会	低線量地域の公園内湖沼における放射性物質の分布特性	2014 年 7 月
長林久夫, 古河幸雄, 平山和雄, 中野和典, 手塚公裕, 柳原隆司, 高井則之	第 3 回環境放射能除染研究発表会	低線量地域のダム流域における放射性セシウムの動態調査	2014 年 7 月
中野和典, 手塚公裕, 古河幸雄, 長林久夫, 亀田豊, 玉田将文	第 3 回環境放射能除染研究発表会	成層・非成層条件の湖沼における水中放射性 Cs の実態	2014 年 7 月
古河幸雄, 長林久夫, 手塚公裕	第 3 回環境放射能除染研究発表会	桧原湖における放射線量の環境動態	2014 年 7 月
菅野翔太, 松田雅司, 手塚公裕, 中野和典, 古河幸雄, 平山和雄, 長林久夫	平成 26 年度土木学会東北支部技術研究発表会	三春ダム流域及び湖内における懸濁態物質と放射性セシウムの動態	2015 年 3 月
田嶋海人, 宮澤俊, 手塚公裕, 中野和典, 古河幸雄, 平山和雄, 長林久夫	平成 26 年度土木学会東北支部技術研究発表会	福島県桧原湖流域及び湖内における懸濁態物質と放射性セシウムの動態	2015 年 3 月
落合真之, 手塚公裕, 中野和典, 古河幸雄, 平山和雄, 長林久夫	平成 26 年度土木学会東北支部技術研究発表会	福島県白河市南湖における底質・水生植物の放射性セシウム濃度の分布特性	2015 年 3 月
田嶋海人, 宮澤俊, 手塚公裕, 中野和典, 古河幸雄, 平山和雄, 長林久夫	平成 26 年度土木学会東北支部技術研究発表会	福島県桧原湖流域及び湖内における懸濁態物質と放射性セシウムの動態	2015 年 3 月
三上誉人, 手塚公裕, 古河幸雄, 長林久夫, 中野和典	平成 26 年度土木学会東北支部技術研究発表会	桧原湖における溶存態・非溶存態水中放射性 Cs の実態	2015 年 3 月
高井, 黒川, 千葉, 柴田, 藪内, 富谷, 中井, 桑江	H27 年度日本水産学会春季大会	福島県沼沢湖に生息するヒメマスの食物源	2015 年 3 月
5 本研究課題に関するその他の発表 (新聞掲載等)			

6 本研究に関連して外部資金への申請状況、獲得状況

長林久夫：平成26年度（2014年度）基盤研究（B）（一般）低線量地域の湖沼流域における放射性物質の負荷と魚類に及ぼす長期的影響の評価，19,019千円（否）

手塚公裕：2014年度国内研究助成：自然科学・技術（2）（H26.10月～H27.9月・クリタ水・環境科学振興財団）低線量地域のダム湖流域における放射性セシウムの輸送に及ぼす土地利用の影響，1,000千円（採）

平山和雄：科学技術振興機構研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）ハイリスク挑戦タイプ（復興促進型），H26 郡I-705，「燃焼炉・セシウム処理装置（密閉一体型）による除染と減容化」，平山和雄，伊藤盛人，平成26年9月～平成27年3月，1,083千円（採）

7 他の研究への発展

高井は研究協力者の福島県内水面水産試験場富谷との共同研究を継続実施しており，平成27年度日本大学生物資源科学部学術助成研究費・総合研究「福島県沼沢湖に生息するヒメマスの放射性セシウム摂取機構」の採択内定を得ており，更なる研究の展開が期待される。

平山は科学技術振興機構研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）ハイリスク挑戦タイプ（復興促進型），H26 郡I-705，「燃焼炉・セシウム処理装置（密閉一体型）による除染と減容化」の採択を受けて，セシウム除染・減容化処理装置の開発を進めている。

8 その他の成果

9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況


名称	知的財産の種類	発明者 (考案者・創作者)	権利者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日

課題番号	総 14-012
------	----------

平成26年度 学術研究助成金〔総合研究〕成果物報告書

平成28年5月20日

日本大学学長 殿

氏 名 江角 真理子 

所属・資格 医学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

退職、転出の場合は、() 書きて受領時の資格を記入

1 研究課題				
「マイクロゲノミクス」から、がん heterogeneity の分子基盤を解明する				
2 研究組織				
氏 名	所属部科・資格	役割分担		
○研究代表者名 江角 真理子	医学部/准教授	病理標本用次世代シーケンシング開発/ 研究総括		
○研究分担者(学内)				
杉谷 雅彦	医学部/教授	肝臓の組織病理学		
増田 しのぶ	医学部/教授	乳癌の分子進化		
久山 佳代	松戸歯学部/教授	口腔癌の分子進化		
高山 忠利	医学部/教授	肝臓癌症例の収集と予後調査		
徳橋 泰明	医学部/教授	骨腫瘍・骨転移腫瘍の分子進化		
計6名				
3 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Nakayama Y, Yamaguchi H, Einaga N, Esumi M.	PLOS ONE/Pitfalls of DNA quantification using DNA-binding fluorescent dyes and suggested solutions.	11(3)	2016	Public Library of Science
江角真理子、山口裕英、柴永直樹、中山裕貴、高山忠利、杉谷雅彦、野田博子、増田しのぶ、末光正昌、久山佳代、吉田明生、徳橋泰明	日本大学医学部総合医学研究所紀要/「マイクロゲノミクス」から、がん heterogeneity の分子基盤を解明する	3	2015	日本大学医学部総合医学研究所
Esumi M, Ishibashi M, Yamaguchi H, Nakajima S, Tai Y, Kikuta S, Sugitani M, Takayama T, Tahara M, Takeda M, and Wakita T.	Hepatology/Transmembrane serine protease TMPRSS2 activates hepatitis C virus infection.	61(2)	2015	American Association for the Study of Liver Diseases

※ホームページ等での公開の (Ⓜ)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)						
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月			
櫻田明久、遠藤聖英、栄永直樹、鈴木穰、緑川泰、高山忠利、杉谷雅彦、江角眞理子	日本生化学会関東支部例会	早期肝細胞癌症例の前癌病変を含めたゲノム変異解析から、がんの発生進展を探る	2016. 6. 11			
野田博子、江角眞理子、中井登紀子、増田しのぶ	第105回日本病理学会総会	ミトコンドリア DNA 多型と癌関連遺伝子体細胞突然変異解析を併用した乳管癌小葉癌併存症例の分子系統樹解析	2016. 5. 12			
末光正昌、山本泰、飯塚晋子、山口桜子、小宮正道、野田博子、山口裕美、江角眞理子、久山佳代	第70回日本口腔科学会学術集会	口腔癌の遺伝子変異解析による intratumoral heterogeneity と形態学的特徴	2016. 4. 16			
中山裕貴、山口裕美、栄永直樹、江角眞理子	第38回日本分子生物学会年会	様々な条件のゲノム DNA が示す quality control 値の落とし穴	2015. 12. 3			
野田博子、江角眞理子、山口裕美、増田しのぶ	第74回日本癌学会学術総会	乳管乳管癌と小葉癌併存症例の分子系統樹解析: FFPE/レーザーマイクロダイセクションサンプルのミトコンドリア DNA 多型から	2015. 10. 9			
江角眞理子、野田博子、末光正昌、久山佳代、増田しのぶ	第74回日本癌学会学術総会、	がんおよびがん関連組織の分子進化: FFPE/レーザーマイクロダイセクションサンプルのゲノム比較解析から	2015. 10. 8			
山口裕美、栄永直樹、中山裕貴、川路美子、江角眞理子	第74回日本癌学会学術総会	Long Evans Cinnamon (LEC) rat の肝臓癌ゲノム解析	2015. 10. 8			
栄永直樹、山口裕美、中山裕貴、川路美子、佐々木泰史、時野隆至、江角眞理子	第74回日本癌学会学術総会	ホルマリン固定パラフィン包埋 (FFPE) 組織 DNA のゲノム解析に問題はないか?	2015. 10. 8			
栄永直樹、山口裕美、吉田明生、末光正昌、野田博子、川路美子、廣谷ゆかり、江角眞理子	第37回日本分子生物学会年会	ホルマリン固定パラフィン包埋 (FFPE) 組織 DNA の変異解析について。	2014. 11. 27			
5 本研究課題に関するその他の発表 (新聞掲載等)						
日本大学医学部病態病理学系形態機能病理学分野ホームページ						
6 本研究に関連して外部資金への申請状況, 獲得状況						
2015年度は、新学術領域研究最終年度のため、申請できず。科研費基盤研究は継続のため申請できず。2016年度は、基盤研究Bに申請したが、採択されず。新学術領域研究「先端ゲノム」の公募に申請中						
7 他の研究への発展						
広く病理検体を用いたゲノム解析研究に応用できる。肝細胞腫、混合型肝癌など、がんの発生進展について未知の領域に、ゲノム解析を応用した研究を進めている。						
8 その他の成果						
1) 2名の本学医学部学生が研究に参加し、研究成果を学会に3演題、学術論文1報を自ら発表している。 2) 2名の本学医学研究科大学院生が主たる研究者として参加し、研究成果を学会に3演題発表している。 3) 東京大学先端生命科学のメディカルゲノム分野と共同研究を始め、次世代シーケンシングを大規模に進めている。						
9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況						
名称	知的財産の種類	発明者 (考案者・制作者)	権利者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日

課題番号	総 14-018 総 13-020
------	----------------------

平成26年度 学術研究助成金〔総合研究〕成果物報告書

平成 28年 4月 13日

日本大学学長 殿

氏 名 山口 大



所属・資格 松戸歯学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

退職、転出の場合は、() 書きで受領時の資格を記入

1 研究課題 生物学的安全性と生体適合性に優れる歯科矯正用インプラントスクリューの開発				
2 研究組織				
氏 名	所属部科校・資格	役割分担		
○研究代表者名 山口 大	松戸歯学部・准教授	研究全般（試作インプラントスクリューの生物学的安全性と機械的性質の評価）		
○研究分担者 谷 本 安 浩	松戸歯学部・准教授	最適構造設計および試作作製と機械的性質の評価		
葛 西 一 貴	松戸歯学部・教授	治療効果の検討		
北 川 剛 至	松戸歯学部・助教	最適構造設計および試作		
田 中 智	生産工学部・准教授	作製と機械的性質の評価		
山 根 庸 平	生産工学部・助教	作製と機械的性質の評価		
徳 永 理 利	松戸歯学部・助手（専任抜）	試作体の矯正力に対する検討		
3 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Takahashi M, Yamaguchi M, Tanimoto Y, Yao-Umezawa E, Kasai K.	Biological Evaluation of a Prototype Material made of Polyglycolic Acid and Hydroxyapatite. Journal of Hard Tissue Biology.	24 (4)	2015年10月23日	硬組織再生生物学会
山口 大, 田中 智, 高橋 桃子, 谷本 安浩, 北川 剛至, 山根 庸平, 徳永 理利, 葛西 一貴.	歯科矯正用アンカースクリューへの応用を目的としたPGA/HAp複合体の機械的評価. 日大口腔科学.	41(3・4)	2015年11月11日	日本大学松戸歯学部

※ホームページ等での公開の(○)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)						
発表者名	学会名	発表テーマ			発表年月	
八尾恵梨子、山口 大、谷本安浩、高橋桃子、葛西一貴	第 64 回日本歯科理工学会 学術講演会	PGA/HA コンポジット体の生物学的評価			平成 26 年 10 月 4~5 日	
高橋桃子、山口 大、谷本安浩、八尾恵梨子、葛西一貴	第 64 回日本歯科理工学会 学術講演会	PGA/HA コンポジット体の機械的評価			平成 26 年 10 月 4~5 日	
Takahashi M, Yamaguchi M, Tanimoto Y, Yao E, Kitagawa T, Tanaka S, Yamane Y, Fuse M, Tokunaga M, Kasai K.	8thInternational Orthodontic Congress	Development of an orthodontic anchor screw using bioabsorbable materials.			平成 27 年 9 月 27~30 日	
高橋桃子、山口 大、谷本安浩、八尾恵梨子、西山典宏、葛西一貴。	第 74 回日本矯正歯科学会 大会	歯科矯正用アンカースクリューへの応用を目的とした生体吸収性ポリマーの機械的生物学評価			平成 27 年 11 月 18 ~20 日	
5 本研究課題に関するその他の発表 (新聞掲載等)						
なし						
6 本研究に関連して外部資金への申請状況, 獲得状況						
1. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 平成 28 年度医療分野研究成果展開事業 先端計測分析技術・機器開発プログラム 「生体吸収性歯科矯正用アンカースクリューの開発」 申請中						
2. 平成 28 年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金 (研究活動スタート支援)) 生体吸収性材料を用いた歯根再生の基礎的研究 (代表者: 高橋桃子) 申請中						
7 他の研究への発展						
本研究において骨芽細胞分化の指標である Osteocalcin, Collagen type 1 の遺伝子発現量が増加したことから PGA が骨芽細胞の分化を誘導することが確認できた。歯科矯正臨床の偶発症として、「歯根吸収」が起こることがある。これは治療中に破歯細胞によって歯根 (セメント質) が根尖から吸収される現象で、重度の場合は歯根の半分以上が吸収されることもある。吸収された歯根は周囲の歯槽骨に置換され、歯根が再生されることはないとされている。本研究において明らかにされた PGA の骨芽細胞に対する分化促進効果を応用すれば、矯正治療中の歯根吸収進行の抑制や吸収された歯根の再生に有効である可能性がある。						
8 その他の成果						
なし						
9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況						
名 称	知的財産の種類	発 明 者 (考案者・創作者)	権 利 者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日
なし						

平成26年度 学術研究助成金〔総合研究〕成果物報告書

平成 28 年 3 月 22 日

日本大学学長殿

氏 名 山形 一雄



所属・資格 生物資源科学部 ・ 教授

下記のとおり提出いたします。

退職、転出の場合は、() 書きで受領時の資格を記入

1 研究課題				
健康長寿をめざした食品中の新規高次生理機能分子の探索とその分子機構				
2 研究組織				
氏 名	所属部科校・資格	役割分担		
○研究代表者名 山形 一雄	生物資源科学部／教授	研究の統括と食品成分による老化に関連した血管内皮細胞障害の予防効果の探索と機構解明		
○研究分担者 関 泰一郎	生物資源科学部／教授	生体内酸化ストレスおよびがんに対する予防効果を有する機能性食品成分の探索と機構解明		
熊谷 日登美	生物資源科学部／教授	糖代謝異常に対する改善効果を有する機能性食品成分の探索と機構解明		
細野 朗	生物資源科学部／教授	老化による大腸免疫系応答への影響の解析と食品成分による調節作用の解析と機構解明		
宇野 茂之	医学部／専任講師	DNA付加体形成および修復メカニズムをターゲットにした発がん抑制物質の探索と機構解明		
3 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
<u>Yamagata Kazuo</u>	Book title; Advances in Medicine and Biology/ Stroke-prone spontaneously hypertensive rats: insights on neuronal vulnerability and astrocytic abnormalities on stroke.	96 Chapter 8	2016	Nova Science Publishers, Inc
<u>Yamagata Kazuo</u> , Sone Natumi, Suguyama Sari, Nabika Toru.	<i>International Journal of Experimental Pathology(IJEP)</i> /Different effects of arginine vasopressin on high-mobility group box 1 expression in astrocytes isolated from stroke-prone spontaneously hypertensive rats and congenic SHRpchl_18 rats.		In press	Wiley and Blackwell
<u>Yamagata Kazuo</u> , <u>Suzuki Sayaka</u> , Tagami Motoki.	<i>Prostaglandins, Leukotrienes & Essential Fatty Acids (PLEFA)</i> / Docosahexaenoic acid prevented tumor necrosis factor alpha-induced endothelial dysfunction and senescence.	104(6)	2016	Elsevier

<u>Yamagata Kazuo,</u> <u>Xie Yajie,</u> <u>Suzuki, Sayaka,</u> <u>Tagami Motoki.</u>	<i>Phytomedicine/</i> Epigallocatechin 3-gallate inhibits VCAM-1 expression and apoptosis induction associated with LC3 expressions in TNF α -stimulated human endothelial cells.	22(4)	2015	Elsevier
<u>Yamagata Kazuo,</u> <u>Tagami Motoki,</u> <u>Yamori Yukio.</u>	<i>Nutrition/</i> Dietary polyphenols regulate endothelial function and prevent cardiovascular disease.	31(1)	2015	Elsevier
<u>Yamagata Kazuo,</u> <u>Yamamoto Manami,</u> <u>Kawakami Kohei,</u> <u>Ohara Hiroki,</u> <u>Nabika Toru.</u>	<i>Neuroscience/</i> Arginine vasopressin regulated ASCT1 expression in astrocytes from stroke-prone spontaneously hypertensive rats and congenic SHRpch1_18 rats.	267(5)	2014	Elsevier
<u>Yamagata Kazuo,</u> <u>Tsuruta Chiaki,</u> <u>Ohtuski Akane,</u> <u>Tagami Motoki.</u>	<i>Prostaglandins, Leukotrienes & Essential Fatty Acids (PLAF)/</i> Docosahexaenoic acid decreases TNF- α -induced lectin-like oxidized low density lipoprotein receptor-1 expression in THP-1 cells.	90(4)	2014	Elsevier

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)			
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
鈴木 爽花, 秋田 佳小里, 山形 一雄	日本薬学会	TNF α による血管内皮細胞の機能不全及び老化誘導に対するドコサヘキサエンの予防作用	平成 28 年 3 月 29 日
鈴木 爽花, 橋本 千尋, 青木 静香, 秋田 佳小里, 山形 一雄	日本薬学会	生活習慣病に関連する刺激で誘導される血管内皮障害と老化誘導および DHA の予防効果	平成 27 年 3 月 28 日
Taiichiro Seki, Yuki Kagawa, Takashi Hosono, Tatsuo Watanabe	ICoff2015	Amelioration of obesity by garlic oil and its relating allyl sulfur compounds	平成 27 年 11 月 23 日
Sachiko Okue, Takatoshi Imai, Kohei Hiyoshi, Sayaka Araki, Manami Yaguchi, Takashi Hosono, Taiichiro Seki	ICoff2015	Anti-inflammatory activity of allyl sulfide derived from garlic	平成 27 年 11 月 23 日
Manami Yaguchi, Asuka Sato, Sayaka Araki, Sachiko Okue, Takashi Hosono, Satoshi Nishimura, Taiichiro Seki	ICoff2015	Diallyl trisulfide inhibits thrombus formation through the inhibition of both platelet aggregation and extrinsic coagulation pathway	平成 27 年 11 月 23 日
Sayaka Araki, Koji Kimura, Manami Yaguchi, Rika Funado, Sachiko Okue, Takashi Hosono, Taiichiro Seki	ICoff2015	Diallyl trisulfide prevents the acetaminophen-induced liver injury through the posttranslational regulation of CYP2E1 protein expression	平成 27 年 11 月 23 日
Rika Funado, Hirokazu Hayashi, Sayaka Araki, Manami Yaguchi, Sachiko Okue, Takashi Hosono, Taiichiro Seki	ICoff2015	The effect of diallyl trisulfide, a garlic flavor component, on nonalcoholic steatohepatitis	平成 27 年 11 月 23 日
長谷 歩, 安藤 俊希, 旭 恵里奈, 稲 成信, 赤尾 真, 熊谷 日登美	日本農芸化学会 2015 年度 (平成 27 年度) 大会	米アルブミンの食後血糖値上昇抑制メカニズムの解明	平成 27 年 3 月 26-29 日
Matsukaze N, Abe R, Yasuda K, Kamikawa T, Nakamura S, Fukaishi M, Akao M, Kumagai H	Joint Symposium of The 3rd International Symposium on Rice and Disease Prevention, Pre-symposium of 9th Asia Pacific Conference on Clinical Nutrition	Analysis of Rice-allergen Epitopes, East Asia Conference on Standardization of Rice Function	平成 26 年 12 月 10-12 日
Ando T, Hase A, Asahi E, Ina S, Akao M, Kumagai H, Kumagai H	Suppression of Postprandial Blood-Glucose Elevation by Rice Albumin, East Asia Conference on Standardization of Rice Function	Analysis of Rice-allergen Epitopes, East Asia Conference on Standardization of Rice Function	平成 26 年 12 月 10-12 日

長谷 歩, 稲 成信, 中島夏子, 金子 智博, 赤尾真, 熊谷 仁, 熊谷 日登美	日本食品工学会第 15 回 (2014 年度) 年次大会	米アルブミンの熱耐性および、泡立ち性、乳化性の検討	平成 26 年 8 月 7-9 日
松風 成美, 茂木 崇, 本田 拓也, 親泊 尚子, 阿部 竜典, 赤尾 真, 熊谷 仁, 熊谷 日 登美	日本食品工学会第 15 回 (2014 年度) 年次大会	糖化ソバアルブミンの物理的機能特性の評価	平成 26 年 8 月 7-9 日
村木 悠平, 小熊 俊生, 津田 真人, 於 鉄崢, 沓掛 優香, 八村 敏志, 高橋 宣聖, 高橋 恭子, 上野川 修一, 細野 朗	日本農芸化学会 2016 年度大会	大腸リンパ組織における制御性 T 細胞フェノタイプ特性の解析	平成 28 年 3 月 30 日
高橋 輝, 鞍田 汐莉, 生井 千裕, 半澤 直行, 津田 真人, 細野 朗	日本農芸化学会 2016 年度大会	抗原の経口感作により誘導される気管支関連リンパ組織の T 細胞応答の解析	平成 28 年 3 月 30 日
畑井 俊哉, 上滝 隆太郎, 於 鉄崢, 高橋 恭子, 八村 敏志, 細野 朗	日本農芸化学会 2016 年度大会	腸管免疫系細胞におけるインターロイキン-5 産生に与える腸内共生菌の影響	平成 28 年 3 月 30 日
中田 一彰, 高橋 恭子, 杉 由高, 小早川 哲朗, 梶林 ひかり, 花澤 重正, 津田 真人, 細野 朗, 上野川 修一	日本農芸化学会 2016 年度大会	腸内細菌により誘導される miR-21-5p は腸管上皮機能を調節する	平成 28 年 3 月 30 日
細野 朗, 津田 真人	第 49 回無菌生物ノートバイオロジー学会総会	無菌マウスと通常マウスの大腸および小腸の腸管関連リンパ組織の形態と T 細胞フェノタイプの比較	平成 28 年 1 月 29-30 日
沓掛 優香, 中田 一彰, 津田 真人, 高橋 恭子, 上野川 修一, 細野 朗	日本食品免疫学会 第 11 回学術大会 (JAFI 2015)	腸内細菌とその代謝産物が腸管関連リンパ組織の IgA 産生応答を修飾する	平成 27 年 10 月 15-16 日
中田 一彰, 高橋 恭子, 杉 由高, 細野 朗, 津田 真人, 上野川 修一	日本食品免疫学会 第 11 回学術大会 (JAFI 2015)	腸内細菌により腸管上皮細胞において誘導される miRNA の同定	平成 27 年 10 月 15-16 日
於 鉄崢, 鈴木 誠, 沓掛 優香, 八村 敏志, 高橋 宣聖, 高橋 恭子, 上野川 修一, 細野 朗	日本農芸化学会 2015 年度大会	無菌マウスと通常マウスにおける大腸免疫系細胞フェノタイプの特徴	平成 26 年 3 月 26-29 日
Kazuaki Nakataa, Tie-Zheng Yua, Yuka Kutsukakea, Makoto Suzukia, Satoshi Hachimurab, Kyoko Takahashia, Shuichi Kaminogawaa, Akira Hosono	The Joint Meeting of The XVIII International Symposium on Gnotobiology (XVIII-ISG) and III International Ecological Forum "Environmental and human health" (EcoForum). St. Petersburg, Russian Federation.	The commensal bacteria and short chain fatty acids affect to immunoglobulin A production by the immune cells derived from the gut associated lymphoid tissues in small and large intestines.	平成 25 年 9 月 21-24 日
宮里 祥子, 岸本 由香, 高橋 恭子, 上野川 修一, 細野 朗	日本食品免疫学会設立 10 周年記念学術大会 (JAFI 2014)	経口摂取した難消化性デキストリンはマウス腸内環境の変化を介して腸管 IgA 産生を修飾する	平成 25 年 10 月 16-17 日
宇野 茂之	日本薬学会	CYP1A1 による経口暴露 BaP が誘導する脂肪肝の抑制作用	平成 27 年 3 月 27 日

5 本研究課題に関するその他の発表（新聞掲載等）						
6 本研究に関連して外部資金への申請状況、獲得状況						
山形一雄						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤研究（C）（一般）（H27～H29） 「遺伝的脳卒中モデルラットの血液脳関門は脆弱かーインピトロ再構築技術を用いた検討」 （研究代表者：山形 一雄）他 2 名，採択 						
関泰一郎						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤研究（B）（H28～H30） 「Exosome,マイクロ RNA に着目した機能性食品成分の新しい作用機構の解明」（研究代表者：関泰一郎） 他 1 名 						
宇野茂之						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤研究(C)（一般）（H27～H29） 「ファイトケミカルが発がんイニシエーションに及ぼす影響」（研究代表者：宇野茂之）他 1 名，採択 ・ 基盤研究(C)（一般）（H28～H30） 「新規 BaP 代謝活性化酵素の同定と毒性予防食品成分の探索」（研究代表者：宇野茂之）他 1 名 						
細野朗						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤研究(C)（一般）（H27～H29） 「大腸免疫系制御の分子機構解明と腸内共生菌・食品機能分子による修飾」 （研究代表者：細野朗）他 1 名，採択 ・ 公益財団法人 飯島藤十郎記念食品科学振興財団 平成 26 年度 特定研究 研究助成(H27) 「乳酸菌発酵された全粒粉およびそれに用いるルヴァン種の腸内発酵と免疫調節作用に関する基礎研究」 （研究代表者：細野朗）他 1 名，採択 						
7 他の研究への発展						
8 その他の成果						
9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況						
名 称	知的財産の種類	発 明 者 (考案者・創作者)	権 利 者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日

課題番号	総 14-022 継続 総 13-025
------	----------------------------

平成26年度 学術研究助成金〔総合研究〕成果物報告書

平成 28 年 4 月 8 日

日 本 大 学 学 長 殿

氏 名 村山 琮明



所属・資格 薬学部・教授

下記のとおり提出いたします。

退職、転出の場合は、() 書きで受領時の資格を記入

1 研究課題				
真菌症の征圧をめざして－診断法の開発と薬剤耐性菌の疫学調査				
2 研究組織				
氏 名	所属部科校・資格	役割分担		
○研究代表者名 村山 琮明	薬学部・教授	総括，核型の決定，ISH 法による診断法の開発		
○研究分担者 加納 暎	生物資源科学部・准教授	環境（農場）および動物からの真菌分離と 薬剤耐性測定		
柴田 恭子	H26.2.16 逝去	口腔内抗真菌剤の開発		
田中 陽子	松戸歯学部・専任講師	口腔内の真菌分離		
小菅 康弘	薬学部・准教授	病理組織標本の取扱		
廣瀬 大	薬学部・准教授	環境真菌の分離 遺伝子型決定，薬剤耐性測定		
合計 6 名				
3 著書・雑誌論文 <small>(著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)</small>				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Kano R, Sobukawa H, Murayama SY, Hirose D, Tanaka Y, Kosuge Y, Hasegawa A,	J Infect Chemother / In vitro resistance of Aspergillus fumigatus to azole farm fungicide	22/ 3, 133-136	2016/03	ELSEVIER
Miyagishi H, Kosuge Y, Takano A, Endo M, Hiroshi Nango, Murayama SY, Hirose D, Rui Kano R, Tanaka Y, Ishige K, Ito Y	Cellular and Molecular Neurobiology / Increased expression of 15-hydroxyprostaglandin dehydrogenase in spinal astrocytes during disease progression in a model of amyotrophic lateral sclerosis	In press	2016	Springer

※ホームページ等での公開の (☑) ・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)						
発表者名	学会名	発表テーマ			発表年月	
村山琮明, 加納壘, 望月隆, 田中陽子, 小菅康弘, 廣瀬大, 槇村浩二, 山田剛	第 59 回日本医真菌学会総会	<i>Trichophyton mentagrophytes</i> complex の核型と分子系統学的解析			2015/10	
Murayama SY, Okushi H, Yokokawa A, Wakayama M, Aki K, Shinozaki M, Okubo Y, Tochigi N, Kano R, Tanaka Y, Kosuge Y, Hirose, Shibuya	19th Congress of ISHAM	<i>In situ</i> detection of Mucorales 26S ribosomal RNA in invasive pulmonary mucormycosis			2015/05	
5 本研究課題に関するその他の発表 (新聞掲載等)						
なし						
6 本研究に関連して外部資金への申請状況, 獲得状況						
<p>獲得資金 2014~2016 年度 文部科学省 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「糖尿病における海馬機能低下の腎不全による修飾: 小胞体ストレスの関与」<u>小菅康弘</u> (研究代表者) (100 万円/380 万円)</p> <p>申請 2016 年度 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(B)「乳房炎に対するメタゲノム解析を基にした防除法の確立」<u>加納 壘</u> (研究代表者) 2016 年度 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(B)「BNA プローブを用いた ISH 法による病原真菌の診断」<u>村山琮明</u> (研究代表者) 2016 年度 文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(C)「口腔常在菌との共生と不調和に関連した生体細胞の障害と回復のメカニズム」<u>田中陽子</u> (研究代表者)</p>						
7 他の研究への発展						
「真菌症診断のための BNA プローブの開発」にかかわる, 株式会社 BNA との共同研究に繋がっている。本研究はすでに一定の成果を得ており, 特許出願準備中である。						
8 その他の成果						
9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況						
名称	知的財産の種類	発明者 (考案者・創作者)	権利者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日